

各関係機関長 殿

香川県農業試験場病虫害防除所長
(公 印 省 略)

令和元年度病虫害発生調査速報第 7 号について

このことについて、次のとおり発表したので送付します。

令和元年度 病虫害発生調査速報 第 7 号
ハスモンヨトウの薬剤感受性検定 (結果の速報)

1. 対象作物：野菜・花き類
2. 内 容：ハスモンヨトウの薬剤感受性検定を行ったところ、フェニックス顆粒水和剤、プレバソフロアブル5、ベネビアOD、アニキ乳剤、ディアナSC、ノーモルト乳剤、コテツフロアブル、グレーシア乳剤およびプレオフロアブルに対する感受性が高く安定していた。
3. 調査方法
 - 1) 採集時期：2019年8月26日、9月5日、9月6日
 - 2) 採集場所：東讃3地点、中讃2地点、西讃4地点の9地点9個体群
 - 3) 供試虫：サトイモの栽培圃場から卵塊を採集し、ダイズ葉を餌として3齢幼虫まで飼育した。同じ卵塊からふ化した幼虫を1個体群とした。
 - 4) 供試虫数：1薬剤当たり1個体群、6頭×3連制。
 - 5) 供試薬剤：第1表に示した12薬剤。対照区(水道水)を含めて展着剤アグラール5,000倍を加用した。
 - 6) 処理及び調査方法：ダイズ葉を使用した食餌浸漬法で行った。プラスチックシャーレに薬剤浸漬した処理葉を3日間与え、以降は薬剤無処理の葉を与え、25℃16時間明期8時間暗期(16L8D)条件で飼育した。処理3日後及び7日後の生存虫数を計数して補正死虫率を算出した。

第1表 供試薬剤および希釈倍率

系統分類	IRAC コード ¹⁾	薬剤名		希釈倍率
		一般名	商品名	
有機リン系	1B	クロルピリホス乳剤	ダーズバン乳剤40	1,500
カーバメート系	1A	メソミル水和剤	ランネート45DF	1,000
ジアミド系	28	フルベンジアミド水和剤	フェニックス顆粒水和剤	2,000
		クロラントラニプロール水和剤	プレバソフロアブル5	2,000
		シアントラニプロール水和剤	ベネビアOD	2,000
マクロライド系	6	エマメクテン安息香酸塩乳剤	アフアーム乳剤	2,000
		レピメクテン乳剤	アニキ乳剤	2,000
スピノシン系	5	スピネトラム水和剤	ディアナSC	2,500
昆虫成長制御剤	15	テフルベンズロン乳剤	ノーモルト乳剤	2,000
その他	13	クロルフェナピル水和剤	コテツフロアブル	2,000
	30	フルキサメタミド乳剤	グレーシア乳剤	2,000
	UN	ピリダリル水和剤	プレオフロアブル	1,000

¹⁾ 殺虫剤抵抗性対策委員会(IRAC)により、殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの

4. 調査結果の概要

感受性の評価には処理7日後の補正死虫率を用いた。

- 1) ダーズバン乳剤40は1個体群で88.9%とやや感受性が低かったが、8個体群は100%と高かった。
- 2) ランネット45DFは4個体群で77.8%~88.9%とやや感受性が低かったが、5個体群は100%と高かった。
- 3) プレバゾンフロアブル5およびベネビアODでは、各々1個体群で94.4%、8個体群で100%と高かった。
- 4) アファーム乳剤は1個体群で83.3%とやや感受性が低かったが、8個体群で93.8~100%と高かった。
- 5) プレオフロアブルは7個体群で94.4~100%と高かった。
- 6) フェニックス顆粒水和剤、アニキ乳剤、ディアナSC、ノーモルト乳剤、コテツフロアブルおよびグレースシア乳剤ではすべての個体群で100%と高かった。

第2表 ハスモンヨウ3齢幼虫の薬剤感受性検定結果

系統分類	薬剤名 (商品名)	処理7日後の補正死虫率(%)									
		さぬき市 寒川町	三木町	高松市 川部町	坂出市 青海町	琴平町	三豊市 豊中町	三豊市 財田町	観音寺市 豊浜町	観音寺市 大野原町	
有機リン系	ダーズバン乳剤40	100	100	100	100	100	100	100	88.9	100	
カーバメート系	ランネット45DF	100	83.3	100	100	100	100	77.8	100	88.9	
	フェニックス顆粒水和剤	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
ジアミド系	プレバゾンフロアブル5	100	100	100	100	94.4	100	100	100	100	
	ベネビアOD	100	100	100	100	94.4	100	100	100	100	
マクロライド系	アファーム乳剤	100	100	93.8	94.4	100	100	100	100	83.3	
	アニキ乳剤	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
スピノシン系	ディアナSC	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
昆虫成長制御剤	ノーモルト乳剤	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
	コテツフロアブル	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
その他	グレースシア乳剤	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
	プレオフロアブル	100	-	100	100	94.4	100	-	100	100	
対照(水) 死虫率		5.6	0	11.1	0	0	0	0	0	0	

5. 防除実施上の留意点

- 1) 若齢幼虫による被害葉は表皮だけを残して白色になっているので、初期の食害発生に注意して、卵塊や幼虫集団を見つけしだい捕殺する。
- 2) 圃場内及び圃場周辺の雑草は増殖源になるので、除草に努める。
- 3) 施設の出入口や開口部には防虫ネットを張り、成虫の侵入を防止する。
- 4) 開花遅延等の悪影響を生じない作物では、黄色蛍光灯を設置する。
- 5) 老齢幼虫に対しては薬剤の効果が低い場合があるので、早期発見に努め、体長1cm以下の若齢幼虫期に薬剤防除を行う。
- 6) 作物によって、登録のある薬剤が異なるので、使用にあたってはラベルをよく読んで登録の有無や収穫前日数、使用回数等の使用基準を遵守する。

* 住宅地等に接した地域及び広範囲に防除する場合は、散布する前に付近住民などに周知するとともに、飛散しにくい農薬を使用するようにしましょう。

* 農薬散布は、無風又は風が弱いときに行うなど、近隣に影響が少ない天候の日や時間帯を選び、風向き、ノズルの向き等に注意して飛散防止を心がけましょう。

* 養蜂が行われている地域では、養蜂関係者と情報交換等の連携を緊密に行うとともに、農薬使用に際しては、養蜂関係者に対し、事前に農薬使用の予定の情報提供を行い、危害防止対策を講じましょう。

病害虫防除所インターネットホームページ
URL: <http://www.jpnpn.ne.jp/kagawa/>